

令和3年度決算をこう評価する

10月12日の本会議において、令和3年度一般会計決算について各会派から討論が行われました。その要旨をお知らせします。

今後の区政運営に的確に反映するとともに、一つでも多く具現化されることを要望し、賛成

自 民 党



令和3年度決算では、新型コロナウイルス感染症対策はもとより、区政全般にわたり区民の安全安心につながる取り組みやサービスの着実な向上が図られたことが確認でき、高く評価する。

また、財政状況についても引き続き健全な財政運営が維持されていることを確認した。今後、本格化する小中学校や本庁舎など区施設の老朽化に対応するためにも、事務事業の徹底的な見直しに加え、自主財源の確保や起債の適切な活用等、中長期的視点からの計画的な財政運営を期待する。

決算審査では、以下の点について質疑を行った。

健康・福祉の分野では、令和あらかわ病院の来年オープンに向けた準備やたんぽぽセンターの児童発達支援センターへの移行に向けた機能充実の方向性について確認した。

子育て・教育の分野では、リニューアルしたあらかわ遊園の更なる充実や、子どもの意見表明の機



◀あらかわ遊園のファミリリーコースター

会を含めた子どもの権利の保障について、文教・子育て支援委員会で検討が進められている条例と連動した、より実効性のある取り組みを期待する。

コミュニティ支援の分野では、喫緊の課題である防災対策について、震災対策・水害対策に関し、ハード・ソフト両面にわたり、備蓄の充実や関係団体との連携強化等について確認した。

産業振興の分野では、年末に予定されているプ

レミアム付き区内共通お買物券やキャッシュレスポイント還元事業の準備状況を確認した。

街づくりの分野では、町屋さくらの代替となる交通、公園整備や緑化の推進について提案した。

これらの趣旨を踏まえ、今後の区政運営に的確に反映するとともに、一つでも多く具現化されることを要望し、本決算の認定に賛成の討論とする。

区民サービスの一層の向上に努力することを求め、賛成

公 明 党



令和3年度予算は、コロナ禍において最も身近な基礎自治体として、区民の命と健康を守ることに全力を挙げるという強い決意に基づき編成され、執行されてきたものと理解している。

令和3年度の具体的な施策についても、区長に提出した「要望書」の項目が概ね予算化、執行されたことを評価する。本決算の審査において、行政改革分野では行政DXによる手続きの簡素化、防災街づくりの分野では大規模火災発生時の広域避難場所の役割についての周知と注意喚起、福祉分野では投票所におけるLGBT等の方への配慮、高齢者福祉分野ではデマンドタクシーなど移動困難者対策、子育て分野ではヤングケアラー支援条例制定と具体的支援策の実施、教育分野ではジェンダーに配慮した制服やスクール水着の普及などについて質疑を行い、着実に執行されたと認識し



◀元気に遊ぶ子どもたち

ている。中でも、以前より主張していた子ども条例制定については、全会一致での成立を願う。

これからも、我が党が一貫して主張している、国や都の財源を最大限活用するとともに、限られた財源を適宜効率的かつ効果的に活用し、区民サービスの一層の向上に努力することを求め、本決算の認定に賛成の討論とする。

新型コロナウイルス対策、くらし応援とも不十分、区民に寄り添った対応を求め、反対

共産党



本決算について、新型コロナウイルス感染拡大とその影響から区民の命と暮らしを守ることが出来たのかという視点から、以下、認定に反対する。

第一に、感染症対策、暮らし応援、ともに不十分な対応であった。計8回にわたる補正予算も国や都の交付金や補助金の枠内の事業であり、将来の小中学校建替え等について、起債の適切な活用等計画的な財政運営を行えば、区民の暮らしを応援する経常的な経費支出は可能であったと考える。

第二に、西日暮里と三河島の再開発事業は持続可能な街づくりに逆行し、区施設の建替え用地確保を困難にしている。実態調査も行わない町屋さくらの廃止は福祉の心を欠く対応である。



▲三河島駅北側の様子

第三に、コロナ禍により公務労働の重要性が明確になる中、保育園の民営化や区立幼稚園の廃園計画を進めることは認められない。多くの署名を集めた陳情等区民の声を受け止めるべきである。

最後に、物価高騰が続く中、医療・介護等の負担も増加し生活破壊が進んでいる。今年6月開始の高齢者の補聴器購入の助成についても助成範囲

の拡大や、憲法が保障する義務教育の無償化等、社会が子どもを育てる施策について、早期検討し、実施することを求め反対討論とする。

来年度の予算編成作業への取り組みに期待し、賛成

ゆいの会



決算に関する特別委員会においては、「想定外を想像する危機管理」「情報共有」「たゆまざる変化」に焦点をおいて質疑を行った。区民のための施策を実施していくには、当然に区組織として大切な、必要なことである。あらためて、一人ひとりがその職責を果たすよう、意識をもって区政運営にあたっていくことを求める。

また、具体的施策として取り上げた、小中学校児童生徒への防災ヘルメットの導入、学童クラブにおける夏休み期間等のお弁当給食の開始、自閉症・情緒障害の特別支援学級の設置等についても、事業実施を併せて要望する。

「荒川区に住んでいて良かった」と誰もが実感出来る内容となるよう、来年度予算編成作業にあたって引き続き取り組むよう要望し、認定に賛成の討論とする。



▲折りたたみ式防災ヘルメット

検討となった要望について調査研究し前向きに進めていくことを求め、賛成

次世代あらかわ



決算に関する特別委員会の総括質疑におい

では、通園バス内児童取り残し事故に関連して区での対応状況、コミュニティバス町屋さくら廃止後の代替案について質問した。他に総務費において、eスポーツやVRを活用した運動不足の解消や区民プールでのスマートウォッチの使用について質疑提案、また、以前から提案していた子ども議会の開催については「子どもの権利条例」の制定に向けた今後の取り組みや方針などについて大変前向きな回答があった。民生費では多胎児世帯へのタクシー利用助成の対象時期の拡大について、衛生費では子宮頸がん検査受診率向上への取り組みや9価ワクチンの助成等、様々な質疑要望を行い、概ね前向きな回答があった。今回の要望は全て区民の声を代弁したものであり、さらに調査研究し前向きに進めることを求め、賛成討論とする。



荒川総合スポーツセンターの外観

震災に強い街づくりに向け、遅れている環境整備・地籍調査の拡充を強く要望し、賛成

自由民主の会



令和3年度主要施策の成果説明書にある地籍調査の拡充については、国の最重要施策として実施されているにも関わらず対応が遅れている。区の財政負担は限定的であり、遅れている原因はマンパワー不足である。職員を適正に配置し、区民・区政の重要施策が進捗するようにすべきと考える。荒川区は23区でも震災危険度が最も高い区の1つであるため、令和5年度には人的資源を適正に配置し、震災に強い街づくりの為に、官だけでなく民も参加しやすい環境整備を進めることを強く要望、また、法定受託事務として行っているワクチン接種について、副作用に苦しむ方々の治療も

自治体として責任をもった対応することを求め、賛成討論とする。



ワクチン接種の様子

区民の命と生活を守ることを求め、反対



あらかわ元気クラブ

物価上昇等により様々な場面で負担が増え、区民生活を圧迫し続けている中、生活保護の受給件数は減少の状況にある。

生活保護が受給しやすくなるよう、イメージ回復等、さらなる対策が必要である。その他、会計年度任用職員とワーキングプアの問題、保護者の賃金格差により有利不利が出る懸念のある高校入試へのスピーキングテスト導入の取りやめ、清掃事業従事職員の退職者補充、町屋さくらの廃止に伴う交通弱者への支援などについても取り組むべきである。

また、非正規労働者が増加した現状において、高額所得者層だけが得をする社会保険制度なども含め、反対の討論とする。



処遇改善が求められる介護の現場

